

# 待たれるデイサービス施設 倒壊の危険に防空頭巾

## ● NPO法人みやぎ身体障害者サポートクラブ

宮城県栗原市一迫で、主に交通事故や脳血管疾患による後遺症などで中途障害者となった人たちに



▲野澤タキ子理事長

対し、自立と社会参加の支援をしている団体です。理事長の野澤タキ子さんは、夫が脳梗塞で半身マヒになったことがきっかけで、リハビリをしてもなかなか社会復帰できない中途障害者の方が多いことを知りました。そこで二〇〇一年六月に中途の若年障害者家族会を結成。その方たちが孤独にならないように集まれる場所を作り、生きがいを持って生活できるように、二〇〇三年にNPO法人みやぎ身体障害者サポートクラブを設立し、身体障害者デイサービス事業を開始しました。

「一迫地域の多くの方が会員になってくれたおかげで資金が集まり、設立することができました。」と野澤さん。毎年開催する収穫祭や流しそうめん等のイベント時には、毎回、たくさんの方の地域の方も参加して盛り上がっています。現在は、障害者自立支援で「デイサービスとショートステイができる施設サポートセンターころんぶす」と高齢者介護保険での「デイサービス施設サポートセンターころんぶす清水」の二施設を運営しています。

### 避難所として

三一一の地震発生時は、落ち着いてなんとかその場で対処することができました。家族と連絡が取れて帰宅できる利用者はない利用者は施設に職員と共に泊まりました。電気と水道が止まったため、デイサービスは次の日から休止する予定でしたが、利用者の安全確認をした際には「施設に来たい」という要望が多かった為、震災発生の次の日から施設は開放しました。

クラブは、以前から地域の方たちや栗原市とも良い関係を築いていたため、利用者の家族や地域の方、栗原市からも食べ物等の物資が沢山届きました。また、利用者や家が地震で倒壊した地域の方、そして避難所では生活できなかつた車いすの方など、様々な方が数日から一か月以上「サポートセンターころんぶす」に滞在し、地域に貢献することができました。

▼和やかな施設内



### 耐震診断で倒壊の可能性が

介護保険施設「サポートセンターころんぶす清水」は、地震の影響で、ほとんどの柱が縦にひびが入り、天井が一部剥がれ落ちそう



▲サポートセンターころんぶす清水

になり、浴室が沈下するなどの被害がありました。幸いケガ人もなく、施設は心配しながらも再開しています。

しかし、施設は築年数が古く、度重なる地震の影響で雨漏りなども起こったため、建物の耐震診断を頼みました。結果は、「倒壊の可能性が高い」という診断でした。この診断結果では、お金をかけて補強工事しても危険が残ります。現地ではまだ余震も多く、心配な日々が続いており、もし、利用者がいる中で大きな地震が来ると大変なことになります。そこで、六月に理事会を開いて検討した結果、現在の「サポートセンターころんぶす清水」の施設を手放し、「サポートセンターころんぶす」の隣の土地に施設を新築することにしました。新築するとしても助成金や補助金があるわけでもなく、法人の資金と借入金で賄わなければなりません。いつまた大きな地震が来るも知れない状況の中、早期に施設を建築しなければなりません。早速準備を始め、今年の十月から着工することになりました。

### いざというときに大切な事

地震で家が崩壊してしまった利用者もおり、デイサービスを再開したときには、多くの利用者が強ばった顔をしていました。また、何日も起きて家から出て来れない利用者もいました。しかし、一時休んでいたデイサービスが始まっていつもの利用者が集まってくると、だんだん笑顔も戻り、賑やかな居場所になりました。でも、地震が来るといつ倒壊するかわからない施設でもあるので、利用者は、みんなで座布団を合わせた防空頭巾を作り、万が一の時に備えています。施設を新築するまでは、防空頭巾は手放しません。

「地域の皆さんから『デイサービスを続けてくれてありがとう』と感謝の言葉をいただいて、これからも安全、安心な施設として、これまで通り、地域の力になっていきたいと思っています。そして地震の時に地域の方から頂いた恩を忘れず、いざというときに自然と助け合うことができよう、日頃からのお付き合いを大切にしていきたいです。」と野澤さん。今では「サポートセンターころんぶす」は、市の指定避難所として登録されています。

**NPO法人  
みやぎ身体障害者サポートクラブ**

〒987-2308  
宮城県栗原市一迫真坂字鶴町135-4  
●TEL 0228-52-2889